

国語 全学統一方式・学部個別配点方式

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
一 現代文	マークと記述を併用	45	80分
二 現代文 ※1	マークと記述を併用	15	
三 古文	マークと記述を併用	40	
四 漢文 ※1	マークと記述を併用	15	
合計		100	

〈問題選択について〉

方式	学部	解答する問題
全学統一・学部個別	文学部	一、二、三または一、三、四
	上記以外	一、二、三

※1 文学部では、「二 現代文」と「四 漢文」は選択問題です。
なお、文学部以外では漢文の独立問題は出題しません。

【出題の基本方針】

高等学校の学習を基礎とし、難解すぎる文章を避けつつも、大学入学後の学びに必要なレベルの文章読解力の有無が判断できるような問題文を選び、出題している。現代文・古文・漢文とも、文章全体の的確な理解、その前提となる基礎的な語彙力や文法の理解を問うものを出題する。現代文では、高等学校までの学習による基本的な知識を前提として、語彙力や論理の流れを捉えた読解力

を問うことを目的としている。そのため、文章全体の流れの中で文章の読解が進むよう、問いの順番を考慮して出題している。古文・漢文も文章全体の主旨を正確に理解できるかどうか、受験生の読解力を問う問題を中心に出题している。その際、読解の前提である文法や語彙などの基礎知識の習得がなされていることを確認するための問いも出題している。

【学習のポイント】

- まず、文章全体の大意を把握することが求められる。そのうえで、文章の中で各段落がどのように構成されていて、個々の文章や語句がどのように位置づけられているかを理解できるよう心がけること。
- 現代文では、特に評論文で使われる概念や比喩的な表現の理解が必要となる。普段から評論文を読み、頻出概念や比喩的な言い回しに慣れておくこと。とくに、ある程度の長さの評論文を短時間で理解する訓練が重要になる。
- 文学的な文章では、人物の心情の読み取りが必要になってくることがあるが、その根拠となる表現を文章中から見つけるよう心がけてほしい。
- 問題文では筆者独自の表現や考え方が展開されることもある。自身の知識や先入見にとらわれず、文章中のキーワードを把握し、筆者が言わんとしていることを的確に把握することを心がけてほしい。
- 繰り返しや、言い換えなどで強調されている部分・語彙は作者が主張したい内容であることが多い。文章の主旨を理解する際、注目しておきたい。
- 段落や文の関係性については、接続詞の使い方や意味を的確に理解し、文脈の流れや文章の構造を捉えることができるようにすること。
- 語彙・句法・表現技法・四字熟語等については、普段から評論文に親しみ、自分にとっての初見の語句があれば、辞書を活用し、調べる習慣を身につけたい。
- 漢字は、文脈の流れの中で理解できるようにしておくこと。同音異義語にも注意しておくこと。また、漢字の書き取りは、書き順を理解したうえで、丁寧に正確に書く練習をしてほしい。
- 文学史については、単なる作者や作品名の暗記ではなく、文学史の流れの中に位置づけ、また描かれたテーマとともに記憶しておくこと。
- 古文は、基礎的な語彙や基本的な文法の知識をしっかりと身につけ、それを踏まえて正確に読み取ることができるように学習しておくこと。
- 現代語訳を課す問題については、基本的な語彙やその組み合わせによる意味を問う問題である。正確な現代語訳ができるよう訓練をしておくこと。
- 古文の文章の流れを理解するうえで、動作の主体が誰かを把握することは不可欠である。日頃から、敬語表現にも留意し動作主体を必ず補いながら読むなどの丁寧な読解を心がけておくこと。
- 古文には和歌を含む作品もあるため、和歌の技法・形式についても理解しておくこと。文学史的な知識も学習すること。
- 漢文は、基本的な知識を問う問題である。高校の教科書で学習する句形や語の意味をきちんと理解して、文章読解の基本的な力をつけておくこと。